学校番号	1206

令和８年度　理科

教科	理科	科目	地学基礎	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	高等学校　地学基礎（第一学習社）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

私たちの一生の時間とは比較にならない長い時間をかけて現在に至っている宇宙を想像しながら、宇宙・地球について学んでみよう。私たちの住む地球はその誕生から今現在も活発に活動している。そのことをときおり起こる地震や火山活動を通じて知ることができる。それは大きな被害を受けることもあるが、同時にその地球や宇宙、特に太陽から多くの恩恵を受けて生活していることも学びたい。地球は誕生してから現在まで、環境と生物とが相互に関連し合いながら変遷してきた。その間、様々な生物が現れ、また、絶滅していった。私たち人類は、そのような過程の中で、地球の歴史からすれば比較的新しい時期に誕生し進化して現在に至っている。私たちは、他の生物と同じように地球にすむ生物の一員であることを自覚しながら、地球の保全についても学びたい。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
地学の基本的な概念や原理・法則を理解する。
【思考力、判断力、表現力等】
目的意識をもって観察，実験などを行い、結果・考察を口頭、論述など様々な方法で表現する。
【学びに向かう力、人間性等】
地学的な事物・事象に主体的にかかわり、科学的に探求しようとする態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	模型や写真、図の観察、作業学習などを通して地学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	地学的な事物・現象の中に問題を見いだし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	地学的な事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探求しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	地球の姿	惑星としての地球	a:地球の形の特徴と大きさを理解できる。b:地球内部の層構造を考察し表現できる。 c: 地球の形や大きさに関する観察や計算から仮説をたて、検討しようとしている。	小テスト	授業プリント	授業での行動や発言
		活動する地球	a: 地球の層構造、構成物質の違い、プレートテクトニクスなどを理解し、知識を身につけている。 b:大地形の形成と地質構造をプレートの運動と関連付けて考察し、表現できる。 c:火山活動や地震に関する資料に基づいて科学的な視点から探求しようとしている。			
		大気と海洋	a: 日本のエネルギー資源や水資源、気団や日本の天気の特徴、集中豪雨や台風、地震動による災害や津波による災害、地震の予測、火山の恩恵と災害について理解し、知識を身につけている。 b: エルニーニョ現象やラニーニャ現象が発生したときに、日本の気候に与える影響について考察することができる。 c:風が起こるしくみ、大気の大循環、海水の組成、海洋表層の循環、鉛直方向の循環に関心を持ち、意欲的に学習しようとしている。			
後期	変動する地球	地球の変遷	a:宇宙誕生の過程、銀河系の構造、太陽の核融合、太陽系を構成する天体の形成過程を理解し、知識を身につけている。 b: 大気圏の構造を示すグラフを判読し、大気圏が高度による気温の変化に基づいて区分されていることを確認できる。 c: 太陽系の構成、その誕生について関心を持ち、太陽系の成り立ちについて意欲的に学習しようとしている。	小テスト	授業プリント	授業での行動や発言
		地球の環境	a: 日本のエネルギー資源や水資源、気団や日本の天気の特徴、集中豪雨や台風、地震動による災害や津波による災害、地震の予測、火山の恩恵と災害について理解し、知識を身につけている。 b: 地球温暖化の原因や、影響をグラフから読みとることができる。 c:地球と日本の自然環境的なかかわりを理解し、意欲的に探求しようとしている。			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度